家具が塞いで扉が開かない?!
～整理・整頓・転倒防止対策～

災害に備える ③

みなさんのご自宅には、どれくらいの物がありますか?洋服、食器、家電、家具、さまざまな雑貨類、それを入れる棚や収納の数々、私たちはたくさんの物に囲まれながら日々の生活を送っています。

「ちょっと棚の上に置いておこう」「とりあえず押入れに入るだけ入れてしまえ」、そうやってしまわれているものも多くあるのではないでしょうか。

棚や家具、家電類の転倒防止対策はどうされているでしょうか。とある調査によると、約6割の家庭で何かしらの対策をしているとの回答が見られますが、まだまだ十分な対策には至っていないようです。

もし大きな地震が発生したら、それらの物が直接的に命を脅かすだけではありません。避難しようとしても倒れたタンスで扉が開かない、廊下が通れない、散乱した食器や雑貨で安全な移動もままならないなど、避難行動にも大きな影響を及ぼします。

また、いざという時に用意していた防災袋や貴重品が、散乱した物に埋もれて分からないという状況もしばしば発生します。

そうならないために、家具や家電の固定、転倒防止対策を積極的に行うだけでなく、廊下やドアの近く、高い所にはできる限り物を置かない、細かな雑貨類などは収納BOXなどを上手に利用して収納するなど、日頃からの整理・整頓がとても大切です。

そして、可能であれば不要なもの、使わないものを処分することも時には必要かと思います。

2024年1月に発生した能登半島地震から1年が経過した今、改めて「防災」という視点で家の中の整理・整頓、必要な転倒防止対策を検討してみてください。

（特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター　増田　勇希）

地震後に大型家具が移動したり、物が散乱した家屋内（上）、たんすや食器棚の転倒防止の突っ張り棒（中）、テレビもネジやバンドで固定する（下）

ワンヘルスとは
動物や環境の健康を守る必要性

動物の愛護と管理を考える ⑮

皆さまは「ワンヘルス」という言葉をご存じですか。聞きなじみのない言葉かもしれませんが、ワンヘルスとは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全化」の三つを「一つ（ワン）の健康（ヘルス）」ととらえる考え方です。すなわち、人と動物と環境は生態系の中で相互に密接に影響しあっているので、人の健康を守るためには、動物や環境の健康も守らなければならないということです。

例えば、人と動物の両方に感染する感染症のことを「人獣共通感染症」といい、狂犬病や最近話題のエムポックスなどが挙げられます。新しく発見される感染症の多くが人獣共通感染症とも言われており、動物でのまん延を防ぐことが、人でのまん延を予防することにつながると言えます。

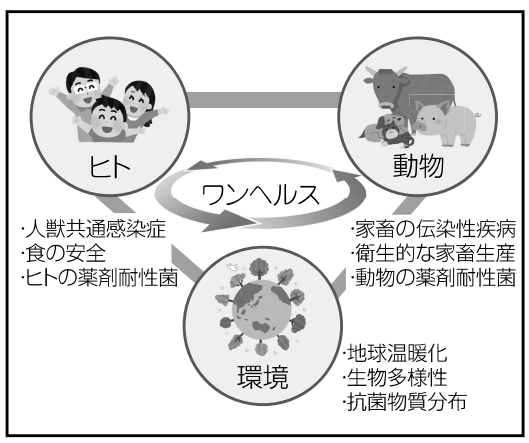
また、人と環境との間には、地球温暖化という問題があります。人が大規模な森林伐採や急速な開発による都市化を進めた結果、近年の気候変動や災害につながっていると言われており、これを防ぎ環境を守ることも人を守ることにつながっていきます。

さらに、我々に欠かせない「食」も、健全な環境で生産された健康な家畜や、安全な農作物・水産物によって支えられています。食育などを通じて食について正しい知識を持ち、動物や環境に関心を持つこともワンヘルスへの取り組みの一つです。

県では、「広島ワンヘルスデー」というイベントを動物愛護センターで開催しています。令和6年度は、畜産動物の生産から加工までの食の安全をメインテーマに据えて、12月7日に開催し、多くの県民の皆さまにご来場いただきました。

全国的に獣医師会や自治体、企業などが主催する、このようなイベントが増えてきていますので、楽しみながら、実は身近な「ワンヘルス」について考えてみてください。

（広島県健康福祉局 食品生活衛生課）



気候変動は動植物にも影響
シカの増加で表土流出や農業被害

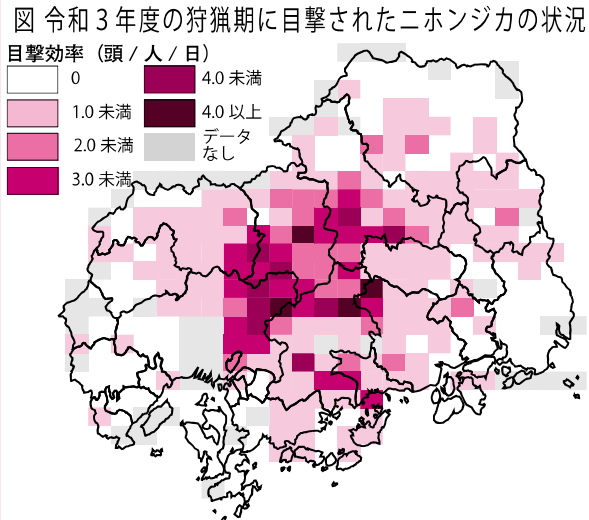
ひろしま気候変動適応センター
⑯動植物への影響

気候変動は、人の生活だけでなく、動植物にも影響を与えています。一例として、積雪の減少などに伴い、ニホンジカ（以下、シカという。）は生息域が拡大し、個体数も増加しています。シカは草食動物で、草花から樹木の皮まで幅広い植物を食べます。シカによる食害が激しくなった場所では、樹皮を剥がされた樹木が枯死したり、森林内のササがなくなって表土が流出しやすくなるなどの被害が報告されています。そのため、シカの食害による植生の衰退や希少植物などへの影響、農業被害の拡大などが懸念されています。

図は、シカの目撃効率（数字が大きいほど生息頭数が多い傾向）です。シカの目撃効率が高い地域ほど、食害による植物への被害が大きい傾向がデータでも示されています（※）。シカの生息地は、カタクリの群生地などがある県北部の国定公園の近くまで広がりつつあります。また、近隣県では、大山付近への分布拡大と希少植生への悪影響が心配されています。

環境省中国四国地方環境事務所では、関係機関などの協力を得て、今後、被害が出始めると予測される地域として、大山蒜山周辺地域、石鎚山系、中国山地西部及び讃岐山脈を対象に、保全が必要な植生の存在情報、シカの生息数増加及び分布拡大の傾向、植生への影響などの現状把握を行い、現況が地図化されました。引き続き、関係機関などにおいて、情報共有を行い、対策が推進される予定です。　（ひろしま気候変動適応センター）

図 令和３年度の狩猟期に目撃されたニホンジカの状況



（出典：「令和3年度出猟カレンダー調査結果について」、広島県自然環境課）

（※）広島県の植生衰退度
広域アクションプランフォローアップ報告 / 環境省中国四国地方環境事務所
https://www.env.go.jp/content/000209933.pdf